

「ドラえもん」は人気のテレビ番組であり映画でもある。誰でもが一度は夢中になって見た経験があると思う。私も我が子が小さいときには、子どもと一緒に楽しみながら見ていた。大人が見ても面白いアニメである。

「ドラえもん」の魅力って何だろうか。皆さんは考えたことがありますか。その魅力は、私たちの知的好奇心を刺激し、私たちを様々な世界に連れて行ってくれることにあるのでは、と思う。

例えば、雲の上に王国を創る話がある。これは、「のび太」と「ドラえもん」が、雲の上に理想の王国を創るのである。その王国は小さな国であるが、山や川等の自然やレストランや図書館等の施設がある。国を運営するための組織もあり、総理大臣等の大臣もいる。そして「ドラえもん」たちが雲の上で生活することで、今まで住んでいた地球では動物や植物の絶滅危惧種が問題となっていることがわかる・・・・・・。

以上は概略だが、皆さんも夢中になって見た記憶を呼び覚ましましたか。恐らくこれを見ていたときには、次に話しの展開がどうなるのか待ち遠しかったのではないのでしょうか。無意識のうちに次に何が起きるのか考えながら見ていたので、30分1時間が「あっ」という間に過ぎてしまったのではないのでしょうか。

人間には誰にでも知的好奇心が備わっている。それは、ゼロ歳児の赤ちゃんにも備わっている。もちろん皆さんにも備わっている。何かを知りたいとか次にどんな話しの展開になるか「ワクワク」した経験があるはずだ。「ドラえもん」を見たときに「ワクワク」して面白かったはずだ。

私は読書も同じだと思う。文字を通して私たちを様々な世界に連れて行ってくれる。それは人間の奥深くに潜む愛の世界かもしれないし、悪の世界かもしれない。または、青春の世界や情熱の世界だったりするかもしれない。

そしてその世界はビジュアルのものではない。文字を通して想像力を働かせながら自分の頭の中に様々な世界を創り上げて行く、無限の広がりを持つ想像上の世界である。目には見えないどんな形にもなり得る世界である。これが私にとって、本を読むことの魅力であり面白さだ。

例えば、私の好きな作家にアーネスト・ヘミングウェイがいる。彼の代表作は「老人と海」である。映画化もされ大ヒットしている。彼はノーベル文学賞も受賞している。

「老人と海」はいたってシンプルな内容である。舞台は中米キューバの海である。主な登場人物は老人と子供そして大きな魚だ。老人はいわゆる一本釣り

の漁師であるが、数ヶ月間、魚を釣っていない。しかし、巨大なカジキマグロを、悪戦苦闘しながら4日間もかけて釣り上げる。

同書の冒頭では次の場面が出てくる。

The blotches ran well down the sides of his face and his hands had the deep-creased scars from handling heavy fish on the cords. But none of these scars were fresh. They were as old as erosions in a fishless desert. Everything about him was old except his eyes and they were the same colour as the sea and were cheerful and defeated.

(大きなシミが顔の両側にあった。両手には深い傷となったシワがあった。しかし、これらのキズはどれも古かった。砂漠の浸食と同じくらい古いものだった。目以外は全てが古いものだった。目だけは海のように青く陽気で、決して敗北した目ではなかった。) ※ 訳は二瓶の意訳

この老人は顔にシミ、手にはキズ、しかも古いキズである。老いぼれた外見である。しかし、目だけは海のように青く陽気なのだ。ヘミングウェイの巧みな表現力により、老人が、どんな老人なんだろうと想像力を掻き立てられる。俳優でいえば仲代達矢のような人物なのかもしれない。(皆さんは、わからないかな。)

同書の最後は次のように終わっている。

He was still sleeping on his face and the boy was sitting by him watching him. The old man was dreaming about the lions.

(老人はうつぶせになり寝ていた。それを少年は見ていた。老人はライオンの夢を見ていた。) ※ 訳は二瓶の意訳

私自身、最初に読んだときには、何故、老人がライオンの夢を見ている場面で終わるのが不思議であった。これは何かの象徴だろう。ライオンは百獣の王であり、動物界の頂点に君臨している。ここでこの作品の冒頭の描写を振り返ってみると、老人の描写に、身体は衰えても目だけは海のように青く決して敗北した目ではなかった、とある。これと関連させれば、老人は身体が衰えようとも、いつまでも大物を釣り上げる漁師として君臨できることを暗示しているのではないか。だから、老人はライオンの夢を見ながら悠然と寝ているのだ。老人は海の勝利者なのだ。

「蓼食う虫も好き好き」という諺がある。蓼の茎や葉は苦みを持つが、それを好んで食べる虫がいる。そこから転じて、人の好みも様々である、という意味だ。読書も同じものなのだろうか。人の好みはそれぞれ違うのだから、活字が嫌いな人には、いくら「面白いよ」「ワクワクするよ」といっても理解してもらえないものなのかもしれない。しかし、口を強固に閉じておかないでほしい。食べればきっと心の栄養になるのだから。